

都道府県・ 指定都市番号	41	都道府県・ 指定都市名	佐賀県	研究課題番号・校種名	2 中学校
				教科名	技術・家庭科(家庭分野)
研究課題	<p>学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p> <p>①各内容における基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、生活の課題を解決する力や生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成するための指導計画及び指導方法等の研究</p> <p>②「生活の課題と実践」に関する指導方法及び評価の研究</p>				
ふりがな 学校名 (生徒数)	さが だいがくきょういくがくぶふぞくちゅうがっこう (475人)				
所在地 (電話番号)	佐賀県佐賀市城内1丁目14番4号 (0952-26-1001)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://www.fuchu.pd.saga-u.ac.jp">http:// www.fuchu.pd.saga-u.ac.jp</a>				
研究のキーワード	題材を貫く「問い」 パフォーマンス課題 解の再考 日常着の手入れ 小中連携				
研究結果のポイント	<p>○小学校の内容「C 快適な衣服と住まい」及び中学校の内容「C 衣生活・住生活と自立」において段階的に指導する内容や繰り返し指導する内容などが明確になり、小中の系統性を踏まえた3学年間の指導計画を作成することができた。</p> <p>○題材の最初に題材を貫く「問い」を生徒と共に設定する授業を行ったことにより、生徒の学習の見通しや実現目標の共有化を図ることができ、その後の主体的な学びにつながった。</p> <p>○「パフォーマンス課題」を導入し、グループで協議したことにより、生徒の考えを広げ深めることができ、学習した知識及び技能を活用して課題を解決する力の向上につながった。</p> <p>○「一枚ポートフォリオ」の導入は、題材全体の見通しと授業の振り返りを容易にし、知識及び技能の活用に有効であった。また、題材の学びをメタ認知することを促し、学校での学びを家庭へとつなぐものとなった。</p> <p>○家庭実践での学びの交流等が新たな視点や解決策を見出すことにつながり、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度に結びついた。</p>				

## 1 研究主題等

### (1) 研究主題

知識及び技能を活用し、生活を工夫し創造する能力を育む家庭分野の指導と評価に関する研究

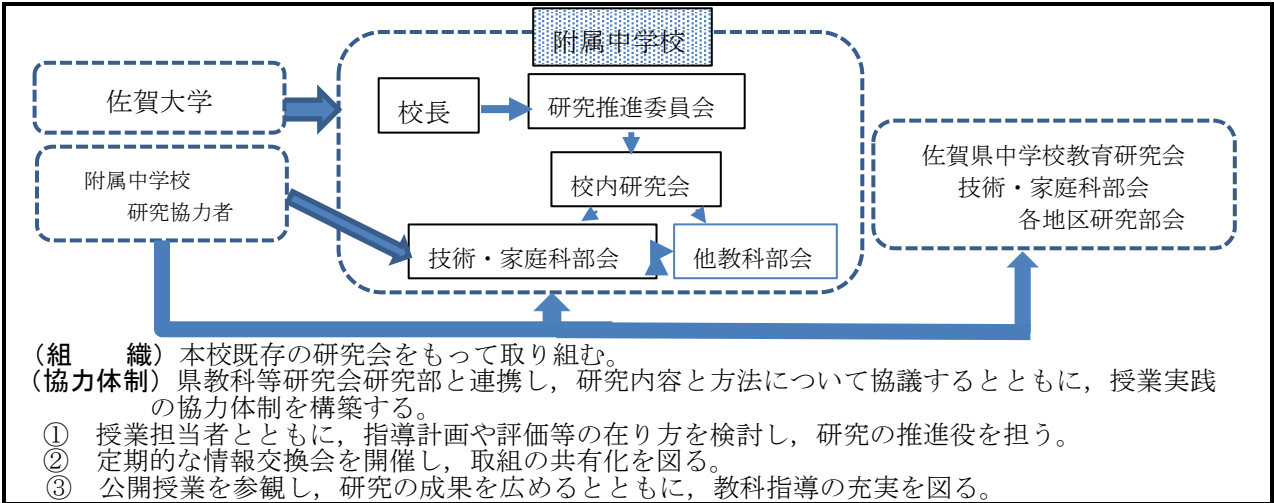
### (2) 研究主題設定の理由

生活を工夫し創造する能力を育むためには、生徒が自分の生活を見つめ、課題を見出し、学んだ知識及び技能を活用して、課題を解決する「学びの過程」を重視した指導が必要である。

しかし、生徒の実態調査から生活体験が少ないため、自分の生活における課題がもてなかったり、学校で学んだ知識や技能を家庭生活で十分活用できていなかったりしている。

そこで、本研究では次期学習指導要領の方向を踏まえ、3学年間で育む資質・能力を明確にしつつ、5学年間を見通した指導計画を工夫する。その際、小中の系統性や他教科等との関連についても検討する。また、「学びの過程」を重視して知識及び技能を習得し、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせて思考力・判断力・表現力等を育成する指導方法や評価の在り方について実践的研究を行い、課題を解決する力や生活を工夫し創造する能力を育みたいと考えた。

(3) 研究体制



(4) 1年目の主な取組

平成 29 年 度	4月～6月	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 中学校1年生を対象に、小学校での学習の実態を把握するためのアンケートを実施・分析と中学校3学年間を見通した指導計画の作成</li> <li>② 各題材で育む資質・能力の明確化と「生活の課題と実践」の効果的な位置づけの検討</li> <li>③ 題材を貫く「問い」を設定する場、一枚ポートフォリオを取り入れた内容「A家族・家庭と子どもの成長」題材「わたしと家族」の授業実践</li> </ol>
	7月～8月	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 内容「C衣生活・住生活の自立」における小中の系統性を踏まえた指導内容の検討</li> <li>② 内容「C衣生活・住生活の自立」題材「快適に着よう 私の衣服」における知識及び技能を活用するパフォーマンス課題及びパフォーマンス評価の検討</li> <li>③ 内容「A家族・家庭と子どもの成長」題材「わたしと家族」におけるポートフォリオ評価及び分析</li> </ol>
	9月～12月	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 「学びの過程」を踏まえた内容「C衣生活・住生活の自立」題材「快適に着よう 私の衣服」の授業実践</li> <li>② 佐賀県中学校教育研究会技術・家庭科部会員への授業公開</li> <li>③ 研究の成果と課題を捉えるための事後アンケートの実施・分析</li> <li>④ アンケート調査を基にした次年度の指導計画の改善</li> <li>⑤ 研究成果と課題の整理、研究報告書の作成及び研究発表の準備</li> <li>⑥ 小学校と連携した授業実践</li> </ol>
	2月	研究協議会での研究成果と課題の公表
	3月	佐賀県中学校教育研究会技術・家庭科部会での研究成果の発表

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ① 育む資質・能力の明確化と5学年間を見通した指導計画の工夫
  - 1) 各題材で育む資質・能力の明確化
  - 2) 小・中学校5学年間の系統性を踏まえた3学年間の指導計画の作成
  - 3) 「生活の課題と実践」の効果的な位置付けの検討
  - 4) 題材を貫く問いと学習のゴールを見据えた題材構成
- ② 問題解決的な学習における「学びの過程」と指導の工夫
  - 1) 「学びの過程」の工夫
  - 2) 対話的な学びを生み出す課題を解決する場と学びを深める場の設定
  - 3) 家庭や地域での実践につなぐ指導の工夫
- ③ 生活を工夫し創造する能力や主体的に学習する態度を育む評価の工夫
  - 1) 思考の深まりをみる評価の検討(パフォーマンス評価)
  - 2) 主体的な学びにつなぐ評価の検討(ポートフォリオ評価・自己評価・相互評価)

## (2) 具体的な研究活動

### ① 育む資質・能力の明確化と5学年間を見通した指導計画の工夫

#### 1) 各題材で育む資質・能力の明確化

- ・内容「C衣生活・住生活の自立」(現行学習指導要領)において、「何ができるようになるか」という視点から目指す資質・能力を明確にした。この題材で目指す資質・能力から逆向きに捉えて一時間単位の授業毎に目指す力を観点別に具体化した。また次年度の実践研究を見据え、今年度の実践を基に、次期学習指導要領の指導事項と照らし合わせた各題材で育む資質・能力についても検討した。

#### 2) 小・中学校5学年間の系統性を踏まえた3学年間の指導計画の作成

- ・今年度は、内容「C衣活・住生活と自立」において、手入れ・製作に関する身に付けさせたい知識及び技能を洗い出し、段階的に指導する内容や繰り返し指導する内容等、小中の系統性を踏まえ、3学年間の指導計画を作成した。

#### 3) 「生活の課題と実践」の効果的な位置づけの検討

- ・3学年間で第1学年の冬休みと第2学年の春休みに「生活の課題と実践」を実施する計画であり、今年度は第1学年で「生活の課題と実践」に取り組んだ。第1学年では夏休みに衣生活に係る知識・技能等の定着を図るための課題を出し、それを受けて学習したことを活用できるように、冬休みに「衣生活の課題と実践」の取組を位置付けた。生徒は、計画を立てて意欲的に実践に取り組んだ。

#### 4) 題材を貫く「問い」と学習のゴールを見据えた題材構成

- ・内容「C衣生活・住生活の自立」題材「快適に着よう 私の衣服」では、「衣服を快適に長く着るには、どのようにすればよいだろうか」を貫く「問い」に設定し、生徒が題材全体の見通しを持つとともに、「問い」の解決を図るための学びを深める題材構成とした。各授業を振り返る毎に、生徒が「問い」の答えとして「衣服を快適に長く着るために、購入の段階から必要性だけでなく、手入れまでを考え購入することや、着なくなっても企業の回収に回したり、自分で作り替えたりすること」に気づき、自分の衣生活の課題を解決できる資質・能力を育むことをねらいとしている。「問い」の設定においては、生活の実態だけでなく、地域における課題について意識させ、家庭生活上の問題点を洗い出し、生徒自身が「問い」を設定し、「問い」の解決に向けて主体的に学習できるよう工夫した。

### ② 問題解決的な学習における「学びの過程」と指導の工夫

#### 1) 「学びの過程」の工夫

- ・課題を解決する力や生活を工夫し創造する能力を育むために、問題解決的な学習の「学びの過程」を6段階とした(表1参照)。

第1段階で課題を発見し、第2・3段階では、課題の解決に向けた学習活動を通して知識及び技能を身に付ける。第4段階で、それらの知識及び技能を活用した「パフォーマンス課題」に取り組み、その後実践計画を立てて家庭で実践活動を行う。第5段階で、実践活動の評価・改善を行うようにした。

#### 2) 対話的な学びを生み出す課題を解決する場と学びを深める場の設定

- ・「パフォーマンス課題」を「学びの過程」の第4段階に設定し、学習した知識及び技能を活用して、主体的に課題を解決する場面とした。題材「快適に着よう 私の衣服」では、クリーニングアドバイザーとして材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方についてアドバイスをを行うことをパフォーマンス課題として設定した。また、学びを深める場として、クリーニングアドバイザーになりきって表現活動(ロールプレイング)に取り組み、解決策を実践的に再考させた。その際、対話が活性化するように話し合う視点を明示した。

#### 3) 家庭や地域での実践につなぐ指導の工夫

- ・題材の中に学校での学びを生かした家庭実践を意図的に仕組んでいくことが有効であると考え、一時間毎の授業の学びを家庭実践につなぐ「一枚ポートフォリオ」を各題材で作成、使用した。題材「快適に着よう 私の衣服」では、主に手入れの学びを生かす家庭実践を計画し、「学びの過程」第5段階において家庭実践したことを相互評価させ、自らの実践を改善させた。

表1 題材「快適に着よう 私の衣服」に関する「学びの過程」(学習過程6段階)

1	日常着の手入れに関する問題点を洗い出し、題材を貫く「問い」を設定する。
2	題材を貫く「問い」の解決に向けて見通しをもつ。
3	題材を貫く「問い」の解決に向けて、知識及び技能を身に付ける。
4	日常着の手入れに関する「パフォーマンス課題」に取り組む。
5	日常着の手入れに関する家庭実践について評価・改善を行う。
6	題材の振り返りを行い、次の実践の見通しをもつ。

### ③ 生活を工夫し創造する能力や主体的に学習する態度を育む評価の工夫

#### 1) 思考の深まりをみる評価の検討(パフォーマンス評価)

- ・ 題材「快適に着よう 私の衣服」では、材料や状態に応じた日常着の手入れ(主に洗濯)について、解決策の異なる4つの失敗例を課題とした。生徒は失敗例について、何が原因なのか、質問を重ねることで失敗した原因が明確になり、解決策を考えることができた。また、自分たちが考えた解決策が本当に妥当であるのか、実現可能であるのかを再考するために、班での解決策についてアドバイザーと客を演じるロールプレイングに取り組みさせた。その際、教師は、生活を工夫し創造する能力の観点で評価した。解決策を再考させることは、生徒の考えを広げ深めることにつながったと考える。

#### 2) 主体的な学びにつなぐ評価の検討(ポートフォリオ評価・自己評価・相互評価)

- ・ 主体的な学びを活性化させる評価の工夫として、ポートフォリオ評価や自己評価、相互評価を行った。具体的には、生徒が「パフォーマンス課題」の解決時に資料として活用したり、家庭実践する際、題材の学習を振り返ったりすることができるよう「一枚ポートフォリオ」を取り入れ、生活の見方・考え方の視点を基に自己評価や相互評価を行わせた。このような評価の工夫が、題材全体の見通しと授業の振り返りを容易にし、知識及び技能の活用にも有効に働いた。また、題材の学びをメタ認知することを促し、学校での学びを家庭へとつなぐものとなった。

### 3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

○小学校の内容「C 快適な衣服と住まい」及び中学校の内容「C 衣生活・住生活と自立」において段階的に指導する内容や繰り返し指導する内容などが明確になり、小中の系統性を踏まえた3学年間の指導計画を作成することができた。

○題材の最初に題材を貫く「問い」を生徒と共に設定する授業を行ったことにより、生徒の学習の見通しや目標の共有化を図ることができ、その後の主体的な学びにつながった。

○「パフォーマンス課題」を導入し、グループで協議したことにより、生徒の考えを広げ深めることができ、学習した知識及び技能を活用して課題を解決する力の向上につながった。

○「一枚ポートフォリオ」の導入は、題材全体の見通しと授業の振り返りを容易にし、知識及び技能の活用にも有効であった。また、題材の学びをメタ認知することを促し、学校での学びを家庭へとつなぐものとなった。

○「何ができるようになるか」という視点から題材で育成を目指す資質・能力を明確にし、学びの段階における評価方法を明確にした評価計画を作成した。そのことが指導の充実につながった。

○家庭実践での学びの交流等が新たな視点や解決策を見出すことにつながり、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度に結びついた。

●今年度は、内容Cにおける小中の系統性を踏まえた指導計画を作成することができた。来年度は、他の内容についても小中の系統性を踏まえた指導内容を明らかにし、3学年間の指導計画の再編成及び5学年間の指導計画の作成を行う。

●生活の営みに係る見方・考え方の視点を意識した学習活動の工夫を行う。

●考えを深める場面における「パフォーマンス課題」提示の工夫と評価の工夫を行う。

### 4 今後の取組

今年度の研究課題を考慮して、内容C以外の小中の系統性を踏まえた3学年間の指導計画の再編成及び5学年間の指導計画を作成する。また、生活の営みに係る見方・考え方の視点を生かした学習活動の工夫やICTを活用した学習活動の工夫を行う。更に、佐賀県内のいくつかの学校で実践研究を行い、パフォーマンス課題の効果的な提示の仕方や評価の在り方について検討を行う。